



宮城県東部保健福祉事務所 (宮城県石巻保健所) 復興支援ニュース Vol.18



平成25年1月

石巻赤十字病院の市川医師、宮城県災害医療コーディネーターに就任

宮城県では、災害の状況に応じた適切な医療体制が構築されるよう助言を行ったり、被災地における医師や看護師等の医療スタッフの配置、患者さんの収容先医療機関を確保するため、災害医療コーディネーターを設置しています。東日本大震災では、石巻医療圏の大半の医療機関や行政機関が被災した中で、当時の災害医療コーディネーターだった石巻赤十字病院の石井正医師（現在・東北大学病院総合地域医療教育支援部教授）に、「石巻圏合同救護チーム」のリーダーとして同医療圏で活動する医療救護班を統括してもらいました。昨年11月、石井正医師に代わって、石巻赤十字病院の市川宏文医師が宮城県で12人目となる災害医療コーディネーターに就任され、今後、助言等をいただくことになりました。

市川宏文医師は、「災害医療は地域の医療関係者のマンパワーを集結しなければなりません。これから頑張ります。」と抱負を語ってくれました。



市川医師

◆プロフィール◆

名前 市川宏文 (いちかわひろふみ)
年齢 49歳
出身大学 東北大学医学部
専門 食道外科
※東北大学病院を経て、H24.4月から石巻赤十字病院に勤務し、10月から医療社会事業部長を務めている。

第3回宮城県被災者復興支援会議

12月25日、県内で被災者支援に取り組む団体や有識者、行政関係者が参加し、第3回宮城県被災者復興支援会議が県石巻合同庁舎で開催されました。会議では石巻市の復興の現状と課題の説明や石巻専修大学の震災復興への取り組み等が紹介されました。また、石巻市大橋仮設団地を会場に、自治会の方々との課題解決ワークショップが開催され、自治会立ち上げ時の課題やコミュニティ作り等について意見交換が行われました。



【大橋仮設住宅での意見交換会】

アルコール問題研修会

支援者が飲酒問題を抱えている人や家族へ支援する際のポイントを学び、支援に活かすことを目的に12月11日、当事務所主催で研修会を開催しました。

今回が3回シリーズの第1回目の研修会です。東北会病院精神保健福祉士の斎藤光央先生を講師にアルコール依存症に関する講話を、その後に病気を克服された方からもお話を聞きました。日本人の約半数はお酒に弱い体質であることや、依存症は病気であることなどの基本を学びました。



【斎藤光央先生のアルコールの講義】

次回以降は多量飲酒者への関わり方などを学ぶ予定です。

東部保健福祉事務所長あいさつ

あけましておめでとうございます。



今年も、元気の出る話題や役に立つ情報をお届けしてまいりますので、引き続きご愛顧の程よろしく申し上げます。当事務所としても、職員一丸となって、被災者の方々の健康を守ることを通して生活再建を支援していきます。現在、ノロウィルスなどによる感染性胃腸炎が流行していますので、手洗いの励行など体調管理にお気をつけください。



東部保健福祉事務所長 渡辺達美

問い合わせ先

宮城県東部保健福祉事務所
企画総務班 企画調整グループ
(石巻市東中里1-4-32)
H P : <http://www.pref.miyagi.jp/et-hc/>
T e l : 0225-95-1416(代表)
F a x : 0225-94-8982